

平成30年度

事務事業評価サポーター制度の実施状況について

京都市では、事業の実施結果を点検する「事務事業評価制度」を実施しています。

- 事業効果の点検
- 行財政資源の有効活用
- 市民への説明責任

などを目的として、評価を行っています。



しかし、制度を運用するうえでまだまだ解決すべき様々な課題があります。

事業を評価するのに適切な指標が見出せない…。

事業の成果を客観的な数値で把握できない…。

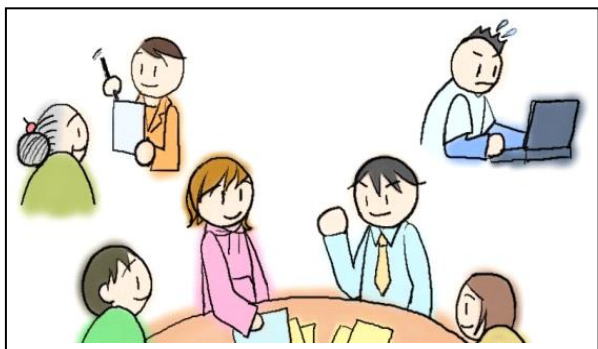
市民に分かりやすい評価になっていない…。



そこで、大学ゼミ等の学生と市役所内から公募した職員とで合同チームを結成し…



事務事業評価制度や、対象となっている分野の事務事業について学んだうえで…



自由な発想、様々な手法で対象分野の事務事業評価をサポートいただき、より良い評価票作りや事務事業の改善に貢献していただきます。

平成30年度の活動対象分野

「子育て支援」、「障害者福祉」

(京都橘大学と協働)



京都市

本市では、平成15年度から本格実施している事務事業評価制度について、庁内外への更なる浸透など主として運用面での改善を図るため、平成17年度から大学ゼミ等の学生と本市職員が協働し、事務事業評価制度の改善に対する提案や各職場で行われる事務事業評価の取組を支援する事務事業評価サポーター制度（以下「サポーター制度」という。）を実施しています。

この「平成30年度事務事業評価サポーター制度の実施状況について」は、平成30年度のサポーター活動状況について取りまとめたものです。

目次

- 1 事務事業評価サポーター制度とは・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 平成30年度サポーターチームの活動状況・・・・・・・・・・・・ 4
 - (1) サポーターチームの編成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
 - (2) 活動の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 3 評価委員会への活動成果の報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- 4 その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- 5 サポーター活動を終えて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8



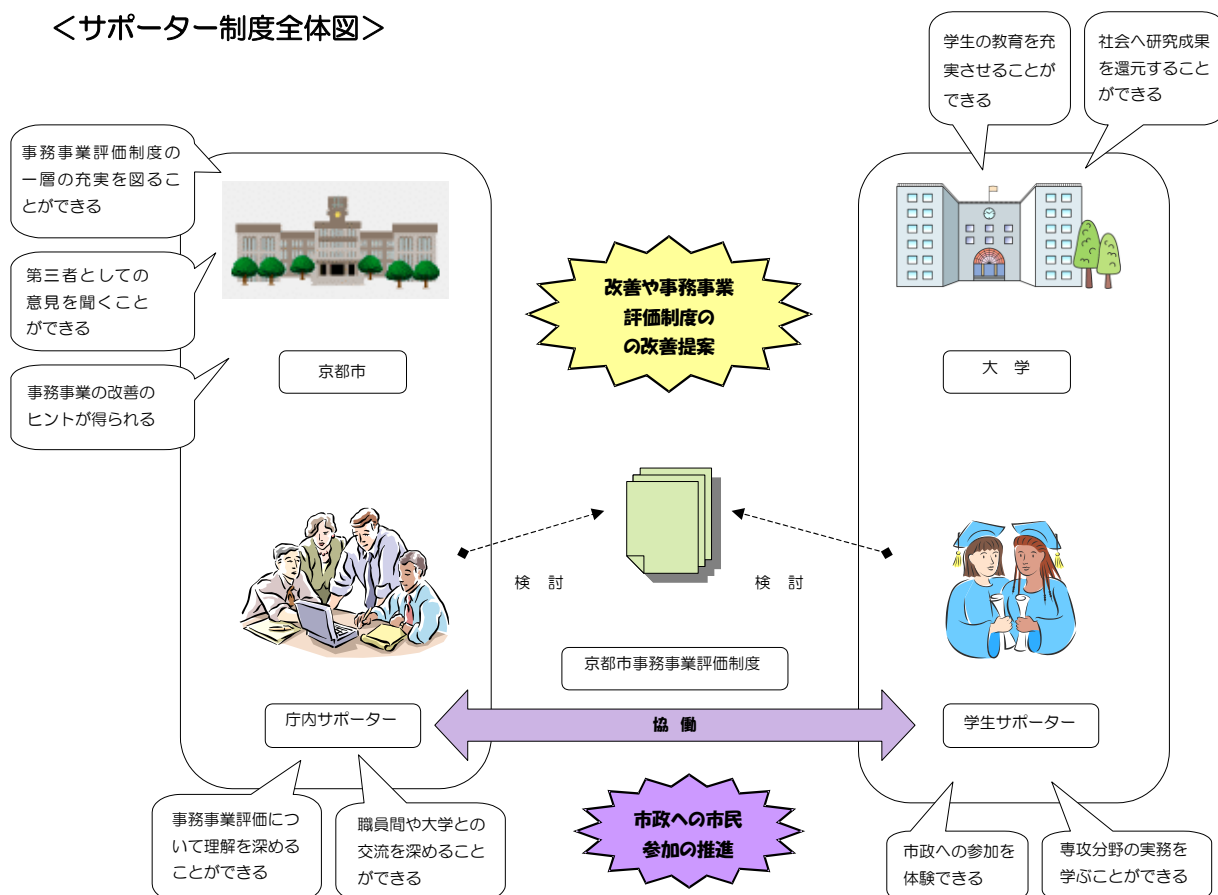
1 事務事業評価サポーター制度とは

◎ サポーター制度が目指すもの

本市では、平成15年度から、本市が実施する事務事業を対象に事務事業評価制度（以下「評価制度」という。）を本格導入し、仕組みとしては全国的にも先進性の高さを評価いただいておりますが、事業の分野によっては事業の有効性や効率性を図るための指標を見出せない、事業成果を数値で把握することが困難であるなど、評価制度を十分に活用できていないものもあります。また、事務事業に関する客観的なデータや数値目標等を記載した事務事業評価票（以下「評価票」という。）はすべて公表していますが、記載内容が難解で市民に対して分かりにくい部分があるなど、評価制度の運用面での改善が今後の課題となっています。

このため、大学ゼミ等の学生と本市職員が協働し、評価制度の改善に対する提案や各職場で行われる事務事業評価の取組を支援するサポーター制度を平成17年度から実施し、学識経験者など外部の委員で構成する第三者機関である京都市事務事業評価委員会の補助機関として活動していただいております。

<サポーター制度全体図>



◎評価制度とは

近年、社会情勢の変化、市民の価値観の多様化等により市民のニーズが拡大する一方で、右肩上がりの経済成長が終えんを迎え、地方自治体は厳しい財政運営を強いられています。

限られた行政資源を有効に活用し、高品質で満足度の高いサービスを安定的に提供していくために、行政の取組の成果を把握、評価し、次に生かす行政評価の手法が登場し、成果指向の行政運営のツールとして多くの自治体で取り入れられています。

京都市の行政評価は政策・施策を対象にした「政策評価制度」と、施策目的の実現手段である事務事業を対象にした「事務事業評価制度」等により構成されています。このうち「事務事業評価制度」は、個々の事務事業の妥当性、有効性、効率性などを、事務事業を行う所属が自己評価し、より効果的で効率的な事務事業への再構築を目指すものです。



<評価制度の実施結果>

| 事務事業評価 実施年度 | 事務事業評価 対象事業数 (注1) | 今後の方向性 | | | | | 財政効果額 |
|----------------|-------------------------|----------------|----------------|----------------|--------------|--------------|--------|
| | | 充実 | 継続 | 効率化等 | 縮小等 | 終了 | |
| 24年度 | 937 (100.0%) | 117 (12.5%) | 629 (67.1%) | 143 (15.3%) | 30 (3.2%) | 18 (1.9%) | 約 23億円 |
| 25年度 | 930 (100.0%) | 125 (13.4%) | 600 (64.5%) | 165 (17.8%) | 28 (3.0%) | 12 (1.3%) | 約 25億円 |
| 26年度 | 943 (100.0%) | 122 (12.9%) | 610 (64.7%) | 172 (18.2%) | 24 (2.6%) | 15 (1.6%) | 約 25億円 |
| 27年度 | 935 (100.0%) | 106 (11.4%) | 593 (63.4%) | 196 (21.0%) | 34 (3.6%) | 6 (0.6%) | 約 23億円 |
| 28年度 | 953 (100.0%) | 106 (11.1%) | 628 (65.9%) | 194 (20.4%) | 14 (1.5%) | 11 (1.1%) | 約 27億円 |
| 29年度 | 938 (100.0%) | 112 (11.9%) | 502 (53.5%) | 296 (31.6%) | 21 (2.2%) | 7 (0.8%) | 約 36億円 |
| 30年度 | 941 (100.0%) | 89 (9.5%) | 575 (61.1%) | 240 (25.5%) | 27 (2.9%) | 10 (1.0%) | 約 25億円 |

(注1) 前年度をもって終了又は廃止した事務事業を除く。

(参照) 事務事業評価制度ホームページ

<http://www5.city.kyoto.jp/jimuijgyohyoka/>

◎京都市事務事業評価委員会とは

事務事業評価は事務事業担当課の自己評価により実施されます。この評価の客観性、透明性を確保するため、京都市では評価委員会を設置し、第三者の立場から評価を行っていただくほか、事務事業評価の手法等についても助言をいただいています。

【京都市事務事業評価委員会委員】（令和元年5月1日現在）（敬称略）

城戸 英樹 委 員（京都女子大学現代社会学部准教授）

山下 満智子 副委員長（京都大学農学部非常勤講師）

岡 民子 委 員（株式会社ナベル会長補佐）

玉井 亮子 委 員（京都府立公共政策学部准教授）

福田 敏信 委 員（あずさ監査法人公認会計士）

<事務事業評価委員会の実施状況>

○京都市事務事業評価委員会

<http://www5.city.kyoto.jp/jimujigyohyoka/committee>

2 平成30年度サポーターチームの活動状況

(1) サポーターチームの編成

平成30年度は、京都橘大学現代ビジネス学部 阪本 崇 教授, 山岸 達矢 准教授, 西野 毅郎 講師をチームリーダーとするサポーターチームが、「子育て支援」及び「障害者福祉」の各分野を対象※として、平成30年6月から活動を開始しました。

※ サポーターの活動範囲は、「はばたけ未来へ！ 京（みやこ）プラン（京都市基本計画）」における27政策を分割し、5年で一巡するように設定しています。

平成30年度事務事業評価サポーターチームメンバー

| | | |
|--------------|---------|---|
| 京都橘大学 チーム | チームリーダー | 京都橘大学 現代ビジネス学部 阪本 崇（さかもと たかし）教授 山岸 達矢（やまぎし たつや）准教授 西野 毅郎（にしの たけろう）講師 |
| | 学生サポーター | 12名 |
| | 庁内サポーター | 5名 |

(2) 活動の概要

◎ 活動の経過

6月 第1回会議の開催

事務事業評価サポーターの委嘱状を交付しました。
そして、事務事業評価サポーター制度及び事務事業評価制度について説明を受けるとともに、事務事業評価について、グループ討論及び発表を行いました。

10月 第2回会議の開催

活動対象となる個々の事務事業の内容について、所管課の職員から説明を受けるとともに、目標達成度評価の指標や評価票の記載内容の見直しなどについてグループで点検し、発表を行いました。

10月～ 個別調査、報告資料の作成

評価委員会で報告する事務事業を選定し、事務事業ごとに担当者を決めました。各担当者は、これまでの点検結果を検証するとともに、現地調査や他都市のホームページからの情報収集などを行い、評価票の各指標を含む記載内容及び事業の実施内容についての改善案を検討して、報告内容をまとめました。

11月 第3・4回会議の開催

評価委員会で報告する事務事業について、チーム内でプレゼンテーションを行うとともに、発表内容について、改善点や補強案について意見を出し合いました。

その後、各担当者は、事務事業評価委員会まで、報告資料の改善や発表の練習に取り組みました。

12月下旬 京都市事務事業評価委員会で活動報告

事務事業評価票の点検結果や事務事業の改善案などについて、評価委員会に報告しました。

◎ 活動内容

1 評価制度について学ぶ

サポーター活動のスタートに当たって、本市の事務事業評価制度について説明を受け、理解を深めました。

2 活動対象分野の事務事業について学ぶ

活動対象分野所管課の職員から、活動対象分野の概要や個々の事務事業の内容の説明を受け、その理解を深めました。

3 評価票の点検と改善案の検討

活動対象となる個々の事務事業評価票について、以下の二つの視点から点検を行いました。

評価票を点検する二つの視点

① 分かりやすいか？

- 評価票の記載内容は、市民に分かりやすいか
(「事業概要」等は、事業の内容が理解できる記載内容となっているか)

② 「目標達成度評価」の指標が適切か？

- 適正な指標で客観的に評価しているか
(事業の「目的」との関係、事業の成果を示す指標となっているか)
- 適切な目標値が設定されているか

点検の対象となった個々の事務事業評価票について、各サポーターが目標達成度評価指標の改善案などを検討しました。

4 事業内容についての提案

現地調査や、他都市の実施状況等の調査を行い、事業の目的達成に向けた事業内容の提案や改善案について検討しました。

5 点検結果のまとめと報告資料の作成

目標達成度評価指標の改善案や事業の目的達成に向けた事業内容の提案など、点検の対象となったそれぞれの事業についての意見や提案を取りまとめ、評価委員会への報告資料を作成しました。

【サポーター会議の様子】



3 評価委員会への活動成果の報告

12月に開催した平成30年度第2回京都市事務事業評価委員会において、「」,「」など4つの事務事業について、それぞれの事務事業における目標達成度の評価指標や事務事業に対する改善案について、報告を行いました。

【平成30年度第2回事務事業評価委員会の様子】



※ 各事務事業評価委員会の詳細については、以下のホームページを御参照ください。

○事務事業評価委員会について

<http://www5.city.kyoto.jp/jimujigyohyoka/committee>

4 その他

11月初めに開催した平成30年度第1回京都市事務事業評価委員会において、各サポーターチームから代表者が評価者として参加しました。

※ 第1回事務事業評価委員会の詳細は、以下のホームページを御参照ください。

○平成30年度第1回京都市事務事業評価委員会の審議結果について

<https://www5.city.kyoto.jp/jimujigyohyoka/1127>

○平成30年度第1回京都市事務事業評価委員会における指摘事項に対する見解等

<https://www5.city.kyoto.jp/jimujigyohyoka/1156>

5 サポーター活動を終えて

平成30年度に活動いただいたチームリーダー及び学生サポーターから、今回のサポーター活動について、以下の感想をいただきました。

○チームリーダーの感想

学生たちにとって貴重な機会

阪本 崇（京都橘大学 現代ビジネス学部 教授）

この事務事業評価サポーター活動に参加することで、学生たちは、教科書では知ることのできない実際の公共の仕事について学べただけでなく、事務事業評価委員の先生方と担当課職員の方々とのディスカッションを間近に聞くことで、公共の仕事を評価する際の視点や、実際に事業に携わっておられる方々がどのようなことに配慮しながら事業を計画し、またそれを日常的に改善しているのかといったことまで学ぶことができたと思います。それだけでなく、自分たち自身の発表に向けて、事務事業評価票を読み込み、資料を準備し、発表内容を完成させるまでのプロセスを庁内サポーターの方々や経営改革課の方々のアドバイスを頂きながら行うことができたことは学生たちにとっては貴重な機会であったことは間違いありません。私自身、学生たちが毎回のよう成長してゆくことを実感することができました。

○京都橘大学現代ビジネス学部 学生サポーターの感想

事務事業評価サポーター活動を終えて

京都橘大学 現代ビジネス学部 経営学科 3回生 石川優月

今回事務事業評価サポーターとして参加させて頂き、行政が行っている事業に関わるきっかけとなり、事業について興味を持つようになりました。サポーター会議で資料を作成する中で難しかったことは、税金で事業は運営されるため経費が合理的で正当に使用されているかを判断することでした。また、チームメンバーとの意見交換や市役所の職員の方からの助言を受け、様々な考え方があると改めて実感しました。様々な考え方の人と一つの問題に取り組む経験は今後社会に出てからも必ず必要となり、その経験を自分の志望する職業に関係する活動で、体験することができ有意義な時間となったと実感しています。また委員会では、評価委員の方から所管課の方へ評価票に関する質問で、評価表のような資料を見る際の着眼点を学ばせて頂きました。この経験はこれから社会に出る際の、私の物事の判断基準になると考えています。

事務事業サポーター活動を終えて

京都橘大学 現代ビジネス学部 経営学科 2 回生 伊藤可奈

最初の頃は分からないことばかりで所管課の方の話を理解するだけで精一杯で考える余裕は全くありませんでしたが、回を重ねるごとに徐々に自分の意見を言えるようになりました。評価票を読み込むと多くの改善点があり、驚きました。どの事業も限られた予算の中で市民のためにこれまで以上に良くしようと多くの努力をしていると感じました。慣れない作業で戸惑うこともありましたが、たくさんの方に助けをいただきやり遂げることができました。プレゼンを終えてからは作成段階では考えていなかった実現可能性について評価委員の方から指摘を受け、様々な角度から物事を見ることの大切さを改めて感じました。半年間のサポーター活動は普通の学生生活では経験できないことばかりで、今後に繋がる良い刺激になりました。この活動に参加することができ本当に良かったです。

事務事業評価サポーター活動を終えて

京都橘大学 現代ビジネス学部 経営学科 3 回生 伊藤心

今回、事務事業評価サポーター制度に参加させていただきとても貴重な経験をさせて頂きました。始めは事務事業評価票自体見方もわからず戸惑いながら進んだのですが、数を重ねていくうちにだんだんと理解してきて、自分たちが担当する事務事業評価票をしっかりと読み解くことが出来るようになりました。最初は行政についてあまり分からない自分が参加してもいいのか？という気持ちもありましたが、学生目線、市民目線だからこそ感じることもあり、職員の方と一緒に京都市の活動について考えることが出来たと思います。プレゼンの際には自分たちがプレゼンを作っている上では気づけなかったことを評価委員の先生方に指摘していただき、プレゼン発表はもちろん、作成する上でも大切なことに気付けたように感じます。今回の活動で学ばせて頂いたことを今後に活かしていきたいと思えます。

事務事業評価に参加した感想

京都橘大学 現代ビジネス学部 都市環境デザイン学科 岡田知美

事務事業評価サポーター制度に参加して、私は多くのことを学んだと同時に、自分にはまだまだ知らないことが多くあることを改めて実感しました。まず事務事業評価表というものの存在や、その見方も知りませんでした。また、評価表の内容の理解には大変苦労しました。今回の活動の反省として、グループで話し合う際、なかなか発言できなかった所、自分の担当した事業に関して十分に調べきれなかった点が自分の反省点だと考えています。今回の活動で最後までやり切れたのは、庁内サポーターの方々や先生方の協力も大きかったと思います。グループで集まる時間も多くなく、集まったとしても全員で集まれるわけではない場合ばかりでしたが、最後まで活動をやり遂げ、プレゼンの発表が行えてよかったです。また、プレゼン発表当日には、評価委員の方々の指摘が大変勉強になりました。この活動は、自分にとって良い経験になったと思います。

事務事業評価サポーター活動を終えて

京都橘大学 現代ビジネス学部 経営学科 加賀稜典

公務員は具体的にどういったことを行っているのかを知りたくてこの企画に参加させていただきました。はじめは事務事業とはなんなのかといったところから始まりました。事務事業を評価できる状態にまで持っていけるか不安でしたが、所管課の人たちの力も借りてなんとかプレゼンできる段階まで作り上げることができました。また、この企画を通して委託をしている事業や、必要だが費用がかかる事業固有の難しさなども知ることができ、大変勉強になりました。特に、発表後の委員の方々や役員の方々の討論はとても印象的で、自分にはない観点の質問ばかりで視野が大きく広がったように感じました。この企画を通して事業の仕組みがわかり、公務員になってから自分がどういったことをして行きたいのか。また、それをどういった形であれば実現していけるのかを具体的に考えて行きたいと思いました。時間はかかりましたが大変有意義な時間でした。

事務事業評価サポーター活動を通して

現代ビジネス学部経営学科3回生 澁谷 怜菜

事務事業評価学生サポーターとして活動に参加させていただき、大学の授業では知ることのできない京都市の取り組みについて知識を増やすいい機会になりました。数多くある事業の中から「生活保護世帯等困窮世帯の子どもに対する学習支援事業」を取り上げ、初めは事業のイメージがもてず悩むこともありましたが、管轄部署の方の説明や社内サポーターさんの貴重な意見を元に無事発表を終えることができました。

発表会では評価委員の方々から多くのアドバイスや指摘をいただき、発表から学んだ点を今後活かしていきたいと思います。最後に、発表会全体を通して学生が大事だと思う事業は評価委員の方もより大事な事業であると考えていることがわかり京都市役所が行なっている事業の重要性を再確認しました。事業をよりよくしていく難しさの中に市役所の仕事のやりがいも感じることもできた活動でした。

事務事業評価サポーター活動を終えて

京都橘大学現代ビジネス学部 経営学科3回生 瀬古 稔真

事務事業評価を通して、わずかでも公務員の実態を知ったことは貴重な経験であった。普段のゼミナール等の大学内での集団活動とは違い、社会人の方を含めた集団活動であった。現場の視点からの意見が多く出され、私には考え方や着目点が不足していることが理解できた。また、4人でのグループ活動ではそれぞれが意見を出し合いながら、私たちの考えを理解してもらえる伝え方を模索したことは、結束力が強まり個人によりグループが成り立っているということが強く印象に残っている。この活動は、公務員に関することであったが、学んだことは今後の社会人で有用だと考える。周囲と協力しながらタスクを進めることは、就職したときに全体をつかめない状況の中で、それぞれに与えられたものを完遂するために使えるものである。また、グループ内で自分の意見や考え方が流されないために、個人やグループを俯瞰で見る能力も必要であり、今後活かしていきたい。

事務事業評価サポーター活動を終えて

京都橘大学現代ビジネス学部 経営学科 3回生 竹内実果子

事務事業評価サポーター活動に参加し、事務事業を評価する事の重要性を学びました。市民から理解を得られるか。ただ目標を達成するだけではなく、市民にとって有益であるか。様々な配慮がなされて事務事業評価票が作成されていることを知りました。そのように作成された事務事業評価票に対して提案を出すのは、恐れ多いことでした。しかし、チームで活動することで臆せず意見を出すことが出来、視野の違った意見を受け入れることも出来ました。先生や市内サポーターの方々から頂いた助言から提案を具体化させ、新たな提案を出せました。話し合いを進めていくことで、担当した事務事業をより良くしたいという気持ちが強くなり、市政により興味を持ちました。所管課の職員の方々や委員の方々からは、解決策を見出すために意見を深掘りする大切さを学びました。今回の貴重な経験は今後社会人になっても活かしていきたいと思います。

事務事業評価サポーターを終えて

現代ビジネス学部 経営学科 2回生 中道三貴

今回、京都市役所の事務事業学生サポーターとして参加させていただき、たくさんのごことを学びました。大学の授業で学んだ、「自治体の仕事」を、自分の肌で感じる事ができる大変貴重な機会でした。普段の学生生活の中で、市役所の方がどんな思いで事業を行っているのか、それにはどんな背景がありこのような事業をされているのか、を市役所の方から直接聞ける機会など滅多にありません。この事務事業サポーターはわたしにとってとても刺激的なものでした。

私は、将来市役所に勤めたいと考えています。しかし、その市役所の具体的な仕事内容というのは、よく分かりませんでした。今回の事務事業評価で、市役所の方が仕事をされている姿を実際に見ることができました。その姿を見て、自分の夢への実現のため努力しなくてはいけない、と感じました。学生サポーターとして参加していく中で、もっと世の中の問題点、課題点に目を向けていく視点がいるんだと改めて思いました。この事務事業評価に参加したことで、自分なりに将来に向けての考えが決まったのではないかと思います。

事務事業評価サポーターを終えて

京都橘大学 現代ビジネス学部経営学科 3回生 西村尚希

私は、二回生の時にも山科区役所の方たちと連携した事業に参加し、山科区のマップを作る活動に取り組んでいました。それがきっかけで、市民の為に活躍する行政の仕事に関心を持ったので、今回の事務事業評価サポーターにも参加しました。今回の活動に取り組む前、自分たちが京都市の作った評価票に対して、訂正や指摘を加え、更に良くなるようになるのか不安でした。最初は、どうすれば皆が納得できるような評価票に出来るか頭が回らず、ただ居るだけの時間がありました。

しかし、周りの仲間と事務事業の担当者との交流を見て、こんな鋭い視点もあるんだという様々な発見がありました。そういった意見交換をしているのを見て、私も自分が思ったことを率直に伝えることを心掛けました。各チームで分かれて作業に取り組んだ時も、それを忘れず、全員が自分の意見をぶつけることが出来て自分達が納得する発表が出来たと感じています。

事務事業評価サポーターを終えて

京都橋大学 現代ビジネス学部 経営学科 3回生 矢代 陸人

この活動に参加するまで事務事業評価という言葉や意味を全く知りませんでした。普段全く目に触れることのない評価票はとても新鮮で不安だったのを覚えています。ですが言葉の意味を調べたり、職員の方が丁寧に説明してくださったりしたこともあり不安は即時に解消されました。今回行った事業はほんの一部で、他にもまだまだあると思うと市民の目線に近い学生の意見はとても大切に、こういった評価票の改善はやらないといけないと実感しました。発表当日は不思議と緊張もなく最後まで発表をやり遂げることができました。発表後の評価や質疑応答で、気付かなかった視点からの質問や意見をいただき成長に繋がったと思います。そして、改善すべきところを見つけ出し意見交換をしてまとめて発表をし、また改善するというこの流れは今後社会に出ても必要になってくると思うので、良い経験になりました。

事務事業評価サポーターを終えて

京都橋大学 現代ビジネス学部 経営学科 3回生 森口実

今回、事務事業評価サポーター制度に参加させていただき多くの学びがありました。最初は、事務事業評価という言葉も知らない状態で参加を申し込んだため不安でした。活動が始まってからも、難しい言葉や制度などに戸惑うことがありました。しかし、職員の皆様に学生の質問や疑問に細かく対応していただき、グループワークもスムーズに進めることができました。また、職員の方々や学生で話し合うことで、自分達がいかに知識や考えが足りないかを実感することができました。この経験を今後の就職活動や社会に出ても活かしていきたいと思います。

発表には出られませんでした。職員の方々のお話やグループワークによって得られるものがたくさんありました。活動を振り返って、参加してよかったと改めて感じます。

この様な貴重な機会を与えていただき、厚く感謝申し上げます。